

高品質温州みかん生産指針

月	1~3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上
生	発芽期			開花期			春梢自己摘心			1次生理落果			2次生理落果			果実肥大期			着色期									
育	生理・形態的花芽分化期						発根盛期			果汁集積開始						生理花芽分化期												

目標品質		糖					酸					L・M・S果生産の目安(mm)					
		極早生	早生	普通	極早生	早生	普通	極早生	早生	普通	極早生	早生	普通	8月1日	8月15日	9月1日	9月15日
		7.0以上	8.8以上	10.0以上	3.0以下	1.7以下	1.1以下	40~45	45~53	48~56	34~46	40~53	46~59				
		9.0以上	9.7以上	11.0以上	2.8以下	1.6以下	1.0以下	-	37~49	42~55	-	37~49	42~55				
		8.5以上	9.1以上	10.0以上	3.2以下	2.1以下	1.2以下	極早生	早生	普通	極早生	早生	普通				

品質向上には樹体へのストレス付与が関係しています。ストレスには主に2種類があります。

着果ストレス … 樹上に果実を着果させることで付与されるストレスです。7月下旬から8月中旬頃までは着果負担をかけ、仕上げ摘果や樹上選果で適正葉果比に近づけ、収穫直前まで着果負担を掛けます。

水分ストレス … 乾燥状態になることで付与されるストレスです。マルチ敷設による水分管理で、樹へ与えるストレスの強さ・時期を調整します。

節水期(初期糖度向上) **水戻し期(減酸促進)** **節水期(後期糖度向上)**

着果負担、フィガロン散布でストレス付与(満開後50~110日頃)

マルチによる乾燥ストレスの付与(果実肥大が緩慢化する恐れがあるので過乾燥に注意)

摘果・かん水(水戻し)による減酸促進(満開後100~130日頃) **葉の退色、萎れ、果実肥大緩慢でかん水**

「ゆら早生」栽培面積拡大！！

和歌山県・JAグループ和歌山は、和歌山で生まれた品種「ゆら早生」の栽培面積拡大を進めています

「ゆら早生」は、夏秋期が多雨であっても高品質果実を安定生産できる品種特性を持っています。また、品種特性に合わせた栽培法も確立されてきています。この品種は、市場評価も年々高くなっており、他の極早生と比べ販売単価が高くなっています。このことから、和歌山県では「ゆら早生」の栽培面積拡大に取り組んでいます。近年、他県産「ゆら早生」の生産量が増加しているため、他県に負けない高品質な果実を生産する必要があります。

※JAグループでは、ゆら早生栽培面積拡大に向け、苗木の確保に取り組んでいます。



マルチ敷設による品質向上の推進

近年の気象は、干ばつや多雨の発生が頻発し高品質果実の安定生産が難しくなっています

↓

高品質果実を安定的に生産するには**マルチが有効**です
特に水田転換園や水はけが悪い緩傾斜園地で効果を発揮します。

マルチ資材被覆状況

